

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

所属部局・職	霊長類研究所、PWS 履修生 1 年
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
新潟県、妙高高原
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
H26, 10/15 ~ H26, 10/18 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京大ヒュッテ (杉山茂氏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
フィールドで研究を行う上で、環境に適切に対応する知識・技術を身につけることは重要なことである。今回の実習は、これらの基礎を学ぶため、新潟県妙高市にある京大笹ヶ峰ヒュッテで行われた。

この時期、妙高高原はすでに十分肌寒かった。バスの中で、防寒の備えを怠ったことを憂いたが、京大ヒュッテは素晴らしい建物で、快適に過ごすことができ、そこから見える風景もまた格別なものだった。しばらくして辺りに散策に出かけた、見渡せば紅へと変わ

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

る木々がいくつも見る事ができ、ゆっくりと秋を感じる事ができた。

翌日、樋口さんから地図の読み方、ロープの結び方をご指導いただいた。コンパスと地図から、自身の位置を割りだし、進むべき方向を決めるのである。ロープの結び方講習は、実に奥深いものだった。簡単に見える手順が、実践では上手く踏めない、何度も繰り返すことが肝要である。



午後からは、地図を片手に近くの山に登った、時折自身の位置を地図上に落とし込むのだが、答え合わせをすると間違っただけであった。周囲の傾斜等の環境から、できるだけ詳細な場所を掴むための練習である。



三日目、火打山登頂のため、早朝にヒュッテを離れた。あいにくの天気で、早々に小雨に打たれた。黙々と足を進めるなか、ペースの遅さが気になった。もっと早く登ればいい

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

のにも思ったが、ゆっくりとしたペースを保っているのは、なるべく汗をかかないようにし、急激に体温が冷えてしまうことを防ぐためだと教えて頂いた。。1900mを超えたところで、初雪を見た。気温は0度に近く、寒さは全身に染み渡った。10月の半ばの雪景色は、温暖な気候で育った僕には初めてのことだった。吹雪を受け、途中で引き返すこととなったが、楽しい経験を得た。



(撮影 有賀さん)

また、この実習中、とにかく美味しいものを食べた。パエリア、サンマ、クロダイ、栗ごはん、オリジナルカレー、独り暮らしの大学院生（男）が普段作ることのなかろう料理が毎夜テーブルに並んだ。

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書



日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書



本実習で引率、ご指導してくださった杉山さん、樋口さんに厚くお礼申し上げます。
また、リーダーとして学生を率いてくださった市野さん、共に実習に参加した有賀さん、
瀧山君、七五三木さん、武井さん、ありがとうございました。

6. その他（特記事項など）